



やりたい活動 環境つくる

竹田の公立中「地域移行」進む

吹奏楽から始め
陸上、剣道に拡大
バレエ、野球も検討

【竹田】公立中学校の部活動を外部の団体で実施する「地域移行」について、竹田市教委は市内4校で取り組みを進めている。昨年度から吹奏楽部を始め、本年度は陸上と剣道にも拡大した。バレーボールや野球でも検討中。担当者は「少子化が進む中であつても子どもたちがやりたいスポーツ・文化活動ができる環境を実現したい」と話している。

竹田市は国のモデル事業 田南部の両中学校の部員がとして、県内自治体の中で 隔週の土曜日に合同で練習。フルート奏者の元教員が指導者となり、大会にも



土曜日に「TAKETA T&F」で活動する竹田市内の中学生ら。4月下旬、同市竹田の竹田丸福陸上競技場

出場した。本年度は毎週に活動を広げた。

陸上、剣道はそれぞれ指導経験がある市民が市教委と連携して受け皿団体を設立し、4校の生徒に募集をかけて活動している。

このうち陸上は46人が登録。火、木、土曜日に市内竹田の竹田丸福陸上競技場に市教委が運行するスクールバスが集まる。スポーツクラブ「TAKETA T&F」（賀籠六めぐみ代表）の指導者6人からアドバイスを受けながら、さまざまなおトレーニングに励む。

初回の練習は4月下旬にあり、緑ヶ丘中2年の中村颯さん（13）は「学校に陸上部がなく、活動できてうれしい。食事の注意点など

専門的なことも教えてもら



中村颯さん 戸井田拓也さん



戸井田拓也さん 中村颯さん

きるということも伝えたい」と真剣だ。各中学校の教員と練習メニューの共有も図っている。

今後、市教委は学校教育課に地域移行を進めるコーディネーターを配置する。同課の田辺秀樹指導主事（51）は「地域住民や生徒、保護者、指導者の声に耳を傾けて進めていく」と語った。

（指原祐輔）

×
モ

部活動は少子化で学校単位での活動が難しくなり、教員の長時間勤務の一因とされる。国は2023年度からの3年間を改革推進期間として、休日の活動を段階的に地域移行するよう促している。県教委は目標を25年度末と示している。



〔問①〕 竹田市教委が実施する部活動の「地域移行」。スタートした昨年度は何部で始めましたか。

〔問②〕 国が「地域移行」を進める背景は？

〔問③〕 中学校の部活動について、あなたはどのように考えますか。続けるためには、「地域移行」のほかに考えられる手立てはありますか。